



アスパラガスの病気や害虫を防ぎましょう

夏にも収穫するアスパラガスにおける病害虫の管理技術

いま、北海道では夏にもアスパラガスを収穫する立茎栽培が盛んになっています

しかし、

夏にも収穫するため、春だけ収穫するこれまでのアスパラガスと病気や害虫の発生が違います
どんな病気や害虫が問題となっているのでしょうか？

斑点病



ハウス立茎栽培では6月下旬から発生します
8月中旬から9月にかけて蔓延します
多発すると茎葉が枯れてしまいます

ネギアザミウマ



立茎開始から寄生し、7月後半に増え始め栽培終了まで増加します
被害は、擬葉のかすり状食痕、若茎の傷や鱗片葉の褐変による商品価値の低下です

ジュウシホシクビナガハムシ



成虫は春芽収穫時から10月上旬まで、幼虫は6月中旬以降10月上旬まで観察されます
成虫は春芽をかじって商品価値を低下させます
夏に幼虫が多発すると茎葉上部がほうき状となり、夏芽と翌年春芽の収量が減少します

どう防げばよいのでしょうか？

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
栽培スケジュール	● 春芽収穫	● ◇ 立茎	◇	●	夏芽収穫	● △	△	茎葉処理
斑点病			★ 初発期		蔓延し始める時期にトリミングと薬剤散布	蔓延期		落葉がみられない程度に管理
ネギアザミウマ			★ 初発期		粘着板で初期発生を予察	薬剤散布(トリミング後や7日間隔2回散布で効果UP)		
ジュウシホシクビナガハムシ					重点薬剤散布時期	幼虫発生期		

アスパラガス立茎栽培における病害虫管理技術

注) 近紫外線除去フィルム(UVC)は、ネギアザミウマ侵入抑制効果があるが、ジュウシホシクビナガハムシの侵入抑制効果はない
UVCによる斑点病の抑制効果は被覆3年目以降は期待できない

トリミング(茎葉の刈り込み)は、斑点病の発生部位の除去や風通しがよくなり発病の抑制効果があり、
茎葉内部への薬剤の付着がよくなることから薬剤散布の効果もアップします
近紫外線除去フィルム(UVC)は、ネギアザミウマの侵入を抑制します
ジュウシホシクビナガハムシ幼虫の防除は、減収を防ぐとともに、翌年の成虫密度を低下させます

農薬は農薬登録のある薬剤
を使用してください

花・野菜技術センター 研究部 病虫科
中央農業試験場 環境保全部 クリーン農業科
住所: 滝川市東滝川735・長沼町東6線北15号
電話番号: 0125-28-2800・0123-89-2290
e-mail: seika@agri.pref.hokkaido.jp